

本学の新しい取り組み

本学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する」という目標に基づき、様々な教育プログラムや研究支援制度などを制定してきました。

最近では、平成24年に「グローバル人材育成推進事業・タイプA(全学推進型)」、今年(平成25年)に「博士課程教育リーディングプログラム【複合領域型(横断的テーマ)】」が採択されました。

グローバル人材育成推進事業

平成24年度「グローバル人材育成推進事業・タイプA(全学推進型)」に本学プログラムが採択され、今年度より、ACTプログラム(Advanced Communication Program)を始めとした外国語カリキュラムの改革、留学機会の拡大、グローバル力育成の取り組み等を行っています。本事業の一環で、8月に本学でサマープログラムを実施いたしました。



サマープログラム

今年で3回目となる、「英語によるサマープログラム」が、8月1日(木)～9日(金)の9日間にわたって開催されました。本プログラムの実施は今年で3年目となりますが、海外協定校からの受講者は55名、国内(お茶大、国内協定校)受講者53名とあわせて100名以上、参加者国籍は計18カ国の大所帯のプログラムとなりました。プログラムでは3つのテーマ(社会科学、自然科学、文学・建築学・芸術学)のクラスに分かれて、英語での講義やディスカッションが行われ、課外では各テーマの内容に関連したフィールドワークも実施されました。

また、今夏から、本学初の「日本語のサマープログラム」も実施。海外の協定大学で日本語を学ぶ学生を対象にしたプログラムでしたが、多数のお茶大生もボランティアとして参加し、各国からの参加者と交流を深めました。本プログラム終了後もSNSなどを利用した友情が続いています。

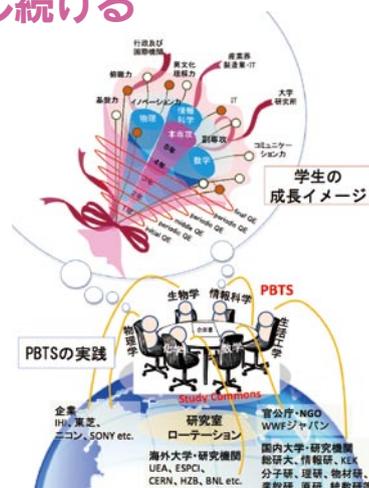
「グローバル人材育成推進事業」は、若い世代の「内向き志向」を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るべく、大学教育のグローバル化を目的とした体制整備を推進する事業に対して重点的に財政支援することを目的としており、本学を含む11大学が全学推進型に採択されています。

『「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成』が採択されました

『「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成』は、博士前期課程から後期課程の5年間一貫教育プログラムで、海外・企業等への長短期「研究室ローテーション」に派遣を行うプロジェクトです。

本プロジェクトでは、理学専攻とライフサイエンス専攻の博士前期課程に入学する大学院生の中から毎年15名程度を選出します。

「Project Based Team Study (PBTS)」というチームスタディでは、異なる分野の大学院生数名からなるグループで、自主課題を設定し、それぞれの専門分野をベースに研究し、その結果をグループ全体で成果としてまとめあげます。このPBTSを中心にプロジェクトを進めていきます。募集要項を含め、詳細は今後大学ホームページ等で発信しますのでご確認ください。



博士課程教育リーディングプログラムは、文部科学省が全国の国公立大学を対象に募集していたもので、「優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたリグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進すること(公募要領より)を目的としています。本学は【複合領域型(横断的テーマ)】で応募し、応募17大学中で採択2大学という狭き門でしたが、東京大学とともに採択されました。